

頸動脈可動性プラークに関する研究

1. 研究の対象

2010年1月～2024年2月に当院で頸動脈超音波検査を行った方で、頸動脈内に可動性プラークを認めた方。

2. 研究目的・方法

可動性プラークは血管内で「ひらひら」と動き、かなり危険な病態です。超音波検査は体に優しく、リアルタイムにプラークの動きの観察が可能です。しかし、稀な病態であるために可動性プラークに関する研究は多くありません。本研究では頸動脈内で認めた可動性プラークから形態学的検討や治療効果、脳梗塞の予測などを検討し、今後の超音波検査や脳神経疾患領域の場で役立てることを目的とします。

方法として、まず2010年1月～2024年2月に当院で頸動脈超音波検査を行った方で、頸動脈内に可動性プラークを認めた方を研究対象とします。次に研究対象となる患者さんの身体所見や既往歴、血液検査の結果などを診療記録より調べます。そして、頸動脈超音波検査の画像から可動性プラークの形態を目視で確認し、頸動脈内の詳細な状態を評価します。また、脳梗塞の既往や治療、再発の有無などを診療記録より調べます。

データを取りまとめた上で、可動性プラークの形態による治療効果や再発の予測、形成のメカニズム、血液検査や生理検査項目との関連の有無などについて、統計学的手法を用いて検討します。

研究期間：倫理審査承認後 ～ 2034年2月28日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、診断名、既往歴、血液検査結果、頭頸部MRI、MRA画像、心電図結果、頸動脈超音波検査結果、心臓超音波検査結果。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

高知大学医学部附属病院 検査部 宮元祥平

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮（電話：088-880-2466）

研究責任者：高知大学医学部附属病院 検査部 宮元祥平